

# 令和元年度 学校研究

## (1) 研究主題

### 『深い学びを追究し、自らの考えを発信し合える生徒の育成』

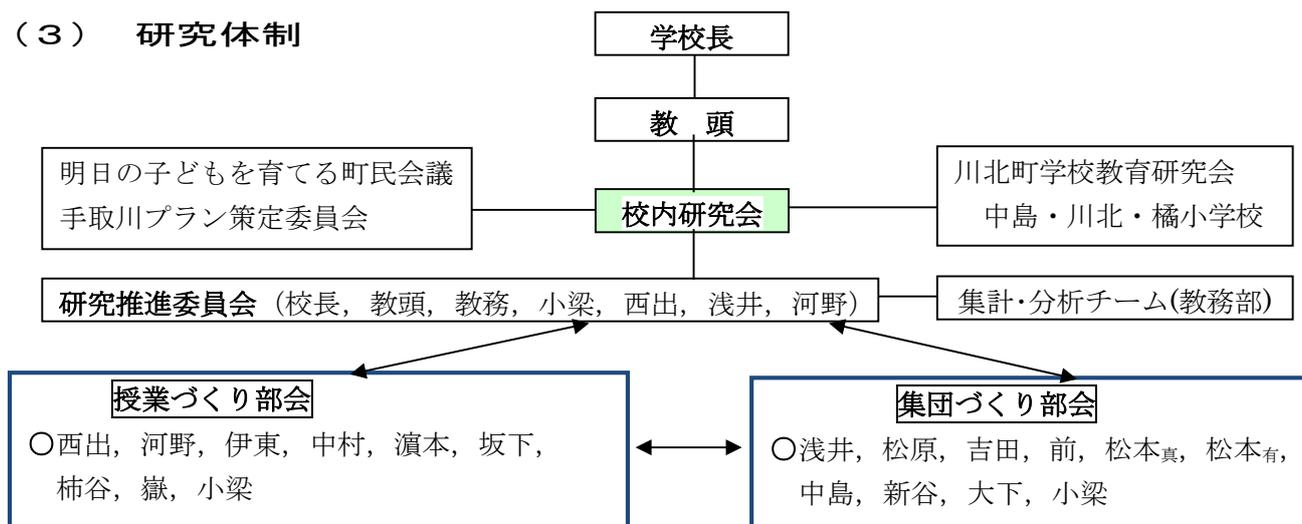
～ 授業づくりと集団づくりを通して ～

## (2) 主題設定の理由

本校では、昨年度「聴いて・考えて・発信し合い深い学びを追究する生徒の育成」と題し、授業づくり部会と集団づくり部会の2つの部会で研究を進めてきた。授業づくりでは「TTタイム (Think & Talk)」や「LLタイム (Listen & Learn)」という2つの時間を授業に盛り込み、学び合いを教師・生徒がともに意識できるようにした。また、集団づくりでは、居心地の良いクラスにするためにスマイルタイムという学級会を設定したり、エンカウンターを実施したりし、親和的な集団づくりを進めてきた。授業では、「TTタイム」や「LLタイム」の言葉を生徒に浸透させることができた。また、生徒同士の良好な関係のもとで、課題の解決に向け相談する姿や学び合う姿が見られ、一定の成果を得ることができた。しかし、設定した対話的な場面において小グループ内では活発な話し合いが行われるものの、全体の場では自信を持たず、挙手をして発表することに躊躇する生徒が多かった。生徒の学習アンケートからも、「聴く」ことへの意識は大変良好であったが、「発表する」ことへの意識にはやや課題が残る結果であった。また、生徒が「深い学び」へと向かえるような授業設計を、教師がイメージできず、生徒の意欲を十分に引き出すことができなかつたことも課題である。

そこで、今年度は「深い学び」と「発信し合う」ことに焦点をあて、主体的・対話的で深い学びを追究することとした。親和的で温かい、自治的な学級集団・学校集団の育成のもと、授業においては「深い学び」を追究していく。その1つとして、総合的な学習の時間では3学年とも課題研究に取り組む。カリキュラムマネジメントにより、教科横断的に学んだことを生かしつつ、課題研究を進めていく。そして、生徒がその過程で練り上げた考えを、自信をもって伝え合う。これらの経験を生かして、各教科の授業においても「深い学び」の実現を目指して、「発信し合う」生徒の育成を図り、社会に通用する力を身につけさせたい。そのような次代を担う生徒の育成を目指し、本研究主題を設定した。

## (3) 研究体制



**研究推進委員会**・・・カリキュラムマネジメントによる教科横断的实践、PDCAサイクルを意識した研究の推進

**授業づくり部会**・・・積極的な授業研究、総合的な学習の時間の推進、校内研修の充実、小中連携推進

**集団づくり部会**・・・居心地の良い集団づくり、道德教育と特別活動の継続した取り組み推進  
掲示物の制作、整備、家庭・地域との連携推進

**集計・分析チーム**・・・学力テストの集計・分析、学力テスト問題の保管・配付

(4) 研究の構想図

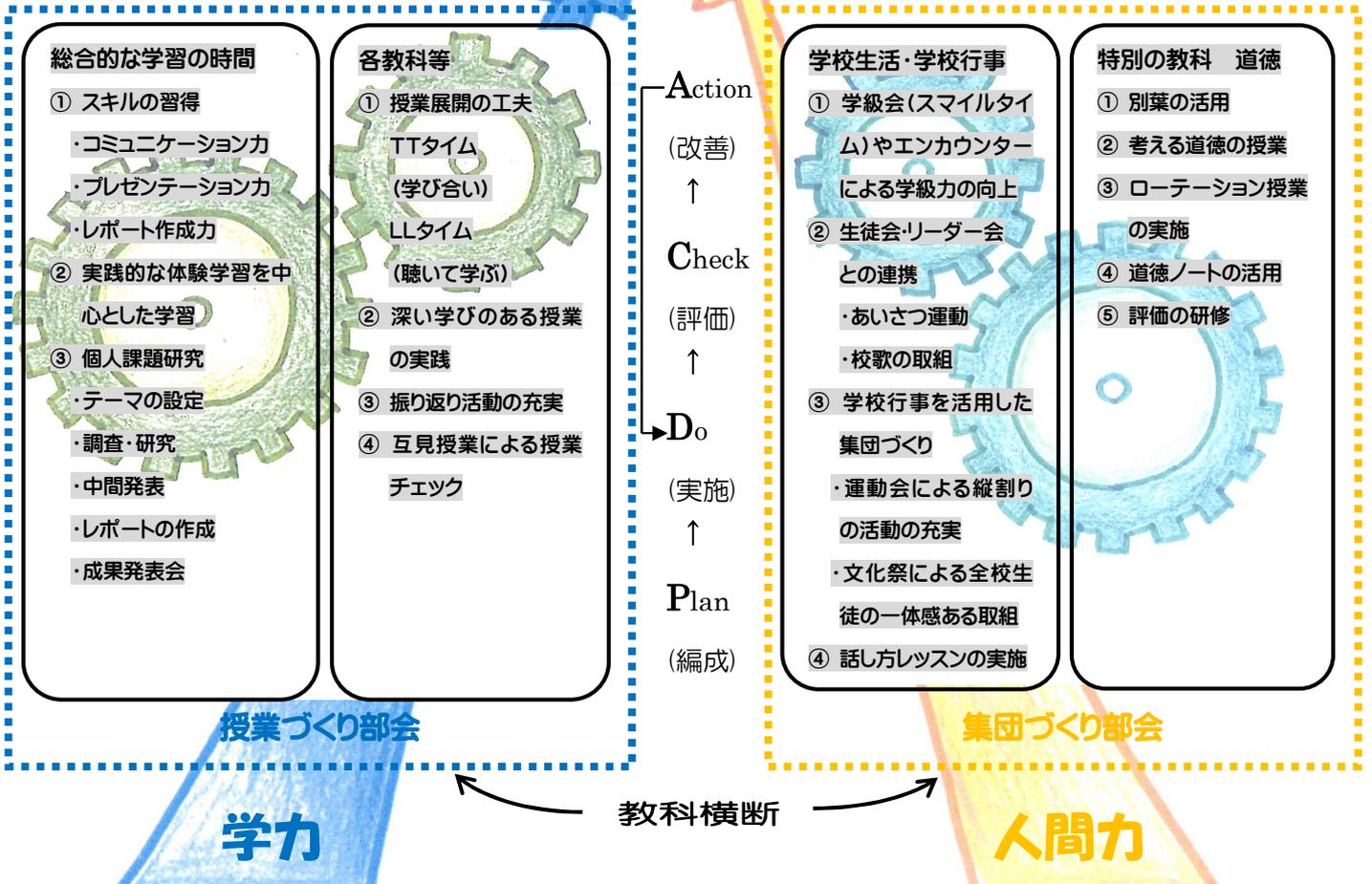
**【教育目標】**  
高い知性と豊かな情操を持ち、心身たくましく、創造的で自立した生徒を育てる

**【めざす生徒像】**  
○自ら学び、深く考え、ともに高め合う知性・創造性に富む生徒  
○豊かな人間性、高い志を持ち、自分の目標に向かって努力する生徒  
○未来を切り拓く、たくましい心身を持ち、社会に貢献できる生徒

**【研究主題】**  
『深い学びを追究し、自らの考えを発信し合える生徒の育成』  
～ 授業づくりと集団づくりを通して ～

カリキュラム

マネジメント



## (5) 校内研修会

4月 当初	研究推進委員会（研究内容、研究の方向性確認、年間計画の確認）
4月 当初	第1回校内研修会（研究主題、推進体制、研究計画の確認、個人研究テーマの提案）
4月 当初	学級づくり学習会
4月24日	授業参観、全体会
5月 8日	第2回校内研修会（研究推進、授業力向上についての研修会）★学校指導アドバイザー
5月22日	要請訪問（公開授業、授業整理会）
5月29日	第3回校内研修会（総合的な学習の時間の研修会）★大学の先生を要請して
8月 上旬	第4回校内研修会（模擬授業）★学校指導アドバイザー
8月26日	第5回校内研修会（川北町学教研特別研修「英語模擬授業」）
9月 中旬	第6回校内研修会（模擬授業）★学校指導アドバイザー
10月 1日	計画訪問（研究授業、公開授業、授業整理会）
10月 下旬	第7回校内研修会（総合的な学習の時間の研修会）★大学の先生を要請して
11月11日	英語拠点校強化研究発表会
12月24日	卒業課題研究発表会（全校集会）
1月20日	第8回校内研修会（各部会の反省と課題）★学校指導アドバイザー
2月12日	第9回校内研修会（令和元年度の研究のまとめ、成果と課題の確認）
3月 5日	第10回校内研修会（令和2年度の研究の方向）

## (6) 研究方法

- ① 深い学びを追究し、自らの考えを発信し合える授業の交流（年間を通して実施）
  - ☆ チェック項目（授業チェックシート及び指導案に明記）
    - ア 生徒が話したくなる課題、発問の工夫（学ぶ意欲）
    - イ 生徒が考えを交流・発信し深め合う展開の工夫（学びの共有）
    - ウ まとめ、振り返りの充実（学びの実感）
- ② 期間ごとに目標を設定  
発信することにおいて、期間ごとに小ステップを設け、段階的に力量を上げる取組を行う。教員アンケートや生徒アンケートから達成状況を把握する。
- ③ 校内研修会の充実  
毎月の校内研修会では「授業力向上」「人間力向上」などのテーマのもと、内容を各部会で精選し、内容の充実を図る。
- ④ 個人研究  
教職員一人ひとりの個人テーマのもと、学校研究にそって授業改善をすすめる。